学校番号	T0110

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ａ　改訂版（８１山川日Ａ－３１１）						
副教材等	なし						

科目の目標	我が国の近・現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察することによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。			
担当者からのメッセージ	（1）授業では、教科書・ノートのすべてを使って、学習します。 （2）資料の読み取りや考察などを行なうことがあります。主体的に説明したり、論述したり、意見交換したりする姿勢が重要です。 （3）「私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」の学習ではレポートの提出や発表を行う場合がありますので，自分の視点や考察した考えをまとめて表現できるよう念頭に置いて学習して下さい。			
評価の観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
評価規準	わが国の近代史に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる主権者として、歴史から学ぶ態度を身につけようとする。	わが国の近代史的事象から課題を見いだし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など近代史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	わが国の歴史的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
成績評価方法	平常の授業に取り組む姿勢、定期考査や小テストの結果、課題などの提出物の状況を、a【関】関心・意欲・態度、b【思】思考・判断・表現、c【技】資料活用の技能、d【知】知識・理解の観点で総合的に判断し評価します。			

学期	単元・学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
前期	序章　近世社会の動揺と近代への胎動 １．幕藩体制の動揺と政治改革 第１章　開国と明治維新 １．アジアの激動と日本の開国 ２．江戸幕府の滅亡	○	○	○	○	a: 農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する時代背景に関心を持つ b: ペリー来航から開国に至る過程について、列強の進出による東アジア情勢のどう変化したのか考察する。 c: 幕府や諸藩が行った諸改革について、資料で確認する。 d:尊皇攘夷・公武合体から倒幕へと急展開する幕末の複雑な政治過程を理解する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	３．明治維新 ４．富国強兵 ５．明治初期の外交 ６．殖産興業と文明開化	○	○	○	○	a: 明治維新による国民生活が大きな変化に関心を持つ b: 大政奉還から戊辰戦争を経て廃藩置県に至る、幕末・明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 c: 琉球と樺太・千島など、近代日本の国境確定過程を地図や資料で整理する。 d: 秩禄処分・徴兵令を、封建的身分制の解体や近代兵制の樹立として理解し、統一幣制・地租改正・殖産興業政策を明治国家の一貫した経済近代化政策として捉える。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察

後期	第２章　立憲国家の成立 １．自由民権運動 ２．立憲制の成立 ３．立憲政治の展開 ４．日清・日露戦争 ５．産業革命と社会の変容	○	○	○	○	a: 民撰議院設立の建白書に始まり国会期成同盟や政党の結成など、民衆の運動に関心を持つ。 b: 初期議会から桂園時代の開幕に至るまでの国内政治の動きを，政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 c: 憲法制定とそれに続く諸法典・地方制度・軍制・教育制度の整備について資料を比較する。 d: 不平等条約の改正を実現し、日清・日露の両戦争を通じて列強への仲間入りを果たした経過について理解する。また資本主義経済の基礎が確立された過程を、産業革命の経過や紡績・製糸・鉄道などの主導部門の成長に着目して理解する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	第３章　第一次世界大戦と日本 １．政党政治の展開 ２．ワシントン体制 ３．経済・社会の変容 第４章　昭和の恐慌と満州事変 １．恐慌の時代 ２．政党内閣期の内政と外交 ３．軍部の台頭	○	○	○	○	a: 第一次世界大戦によって一時的な繁栄を謳歌した日本経済が、大戦終結や関東大震災によって深刻な打撃をこうむる過程に関心を持つ。 b: ２回の護憲運動を経て，政党政治が「憲政の常道」となるに至る過程を理解する。 c: 第一次世界大戦・ロシア革命・ヴェルサイユ=ワシントン体制の成立という世界史的激動に日本がどう対処したか、資料で整理する。 d: 金融恐慌から始まる日本経済の動揺を、世界経済との関連に注意しながら理解する。さらに満州事変に始まる中国侵略の本格化と五・一五事件による政党政治の終焉という内外の激動が、連動して進行する過程を理解する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	第５章　第二次世界大戦と日本 １．日中戦争 ２．重化学工業化と統制経済 ３．第二次世界大戦と太平洋戦争 第６章　占領下の日本と現代まで １．占領と改革 ２．サンフランシスコ講和条約以降 ３．高度経済期と冷戦終結以降	○	○	○	○	a: 二・二六事件を契機に軍部の政治的発言権が増大する中、ついに中国との全面戦争に突入していく過程に興味・関心を持つ。 b: 日米交渉から開戦、米軍の全面的反攻，終戦に至る全過程を、戦争にともなう国民生活の全面的崩壊とともに整理する。 c: 軍需が支えとなって日本経済が恐慌を脱出し，重化学工業化が進む一方，経済の全面に渡って国家統制が強化される過程、および高度経済成長と冷戦終結以降の現代経済を資料から理解する。 d: 戦前から戦後への世界秩序の変化を踏まえ、戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革、集大成となる日本国憲法制定、冷戦期とその後の国際秩序との関わりを理解する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察